

平成 29 年 6 月 29 日

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム企画運営委員会設立会議 あいさつ

準備会を代表しまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム、企画運営委員会設立会議」にご参集戴きまして、誠にありがとうございます。

有明海・八代海の環境悪化が顕著となり、その再生が社会的重要な課題として認識されるようになって、およそ 20 年来の長期になっております。これまで数多くの調査・研究等が実施され、国では環境省を中心に、平成 18 年および、平成 28 年度に「有明海・八代海等総合調査評価委員会報告」が取りまとめられ、私も「取りまとめの指導と作業」に直接に関わってきたところでありますが、個々の地域の課題に対する実効性のある具体的対策には未だに不十分のままで、その対応策が喫緊の重要課題であります。

このような、有明・八代海環境の再生に関しては、国や県等の行政のみならず、関係するすべての人々が参集し、議論し対策を検討・実施していく「体制（システム）とその場」が不可欠であります。有明海・八代海の海域全体にかかわる、この「体制・場づくり」がスムーズに行われることがベストであります。現実的には様々な障害が存在し、現状では非常に困難と判断せざるを得ない状況にあります。

このような状況のもと、私共事務局と熊本県の協力により、2015 年に「第 8 回全国アマモサミット 2015in くまもと・やつしろ」を開催し、「八代海・有明海を豊かな海に再生するため」をゴールとして、関係機関みんなが集い、白熱の議論を展開しました。その成果を「熊本宣言文」としてまとめ、“皆で再生に取り組む”という大きな一歩を踏み出しました。このサミットは、有明・八代海の再生に向けて、まずは熊本県から「再生の体制・場づくり」を始め、再生連携体制の“範例”となることを“意図”したものであります。

このサミットの後、多様な関係者から構成される「準備会」を立ち上げ「熊本県環境生活部」との協議を重ねまして、「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムの設立」に取り組むという「合意」の下、準備を進めてきたところであります

実は、この「フォーラムの設立」は昨年 5 月を目途にしておりましたが「熊本地震発生」により、やむなく「延び延びに」なっておりました。

このような経緯の中、本日は、誠に「記念すべき日」であります。熊本県の沿岸域環境再生を目標に、多様な関係者が集い、再生対策の議論や実施をする“協働の場”としての「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム体制」、その中枢である「企画運営委員会設立」が執り行われる事、ここに至るまで“20 年余りの時”を要しました。「記念すべき日」として感慨深く思います。

ここに至るまで、多くの方々のご尽力とご理解・ご協力をいただきましたこと、特に準備会事務局の皆様には、改めまして深くお礼申し上げます。

最後になりますが、本年中の設立を目標に「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム」の立ち上げを予定しております。これに向けまして皆様方の、より一層の多くのご協力、ご指導をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

「熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム」：(熊本大学名誉教授) 準備会代表 滝川 清